

登録コード	E8001400	開講年度	2026				
授業科目	古典文学特別演習					担当教員	西 一夫
英文授業名	Advanced Seminar in Japanese Classics Literature					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・3時限	対象学生	
講義室	教育M410			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	中等教育における漢字・漢文、さらには漢語は重要な位置づけにあることを理解し、既存の教材研究に資するための資質・能力の育成を目指す学習指導要領の趣旨に添った教材研究の高度な方向性と具体的な教材研究の在り方を理解・習得して評価問題が作成できるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	漢語研究で代表的な研究論文を批判的に読むことを通して、古典文学或いは漢語研究の現状を把握するとともに研究方法の実際を具体的な演習によって体感する。 古典文学研究に終始せず、対象とする領域は近代漢語研究にまで及ぶ。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンス①：漢語研究の現在 第2回：ガイダンス②：漢語研究の方法と工具書類 第3回：古典漢語研究論文の批判的読解①(和習と仮名：齊藤希史論文) 第4回：古典漢語研究論文の批判的読解②(漢字による和語注釈：神野志隆光論文) 第5回：古典漢語研究論文の批判的読解③(万葉集の「係念」「係恋」をめぐって：小島憲之論文①) 第6回：古典漢語研究論文の批判的読解④(「経紀の人」：小島憲之論文②) 第7回：古典漢語研究論文の批判的読解⑤(上代詩歌に見る漢語的表現：小島憲之論文③) 第8回：古典漢語研究論文の批判的読解⑥(懷風藻伝家伝を考える：小島憲之論文④) 第9回：古典漢語研究論文の批判的読解⑦(平安びとの漢語表現：小島憲之論文⑤) 第10回：古典漢語研究論文の批判的読解⑧(日本文学における和習：小島憲之論文⑥) 第11回：古典漢語研究論文の批判的読解⑨(『佩文韻府』・『文選』を読まぬ日はなし：小島憲之論文⑦) 第12回：近代漢語研究論文の批判的読解①(森鷗外の漢語「今夕」「易北」：小島憲之論文①) 第13回：近代漢語研究論文の批判的読解②(森鷗外の漢語「赤野」「妃嬪」：小島憲之論文②) 第14回：近代漢語研究論文の批判的読解③(森鷗外の漢語「望断」「青一髪」：小島憲之論文③) 授業アンケート						
(6)成績評価の方法	次の要素を総合して評価する。 ■各回の輪読論文の読解（DP1の目標達成） ・報告担当者として、討議のための資料作成（30点） ・報告者と出席者との質疑・討論の振り返り（1回2点、12回＝24点） ■各回の資料作成に関する基礎的な知識・技能（DP1の目標達成） ・工具書の利用（10点） ・参考文献の提示方法（10点） ■輪読を通しての理解度を測る最終レポート（DP1の目標達成） ・教材研究に資する高度な理解度を測る最終レポート（26点） ■得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習：担当文献を熟読し、問題点を明らかにした資料を作成する 事後学習：問題点として示された課題に対して関連文献を調査して事後レポートを作成する ※この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	専門性が高いため、ある程度の古典文学、なかでも漢語表現に関する知見を有することが求められる						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。 研究室：中校舎4F 408 内線番号：4072 アドレス：nishika@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	その都度事前に論文の複写を配布する。						
【参考文献】	小島憲之『ことばの重み』（2011年、講談社）						

【参考文献】	小島憲之『日本文学における漢語表現』（１９８８年、岩波書店） 小島憲之『漢語逍遙』（１９９８年、岩波書店） 池上禎造『漢語研究の構想』（１９８４年、岩波書店） 東京大学教養部国文・漢文学部会『古典日本語の世界』（２０１１年、東京大学出版会）
--------	---